

令和6年度
第60回 新潟県小中学校教頭会研究大会
第15回 上越ブロック研究大会「上越・妙高大会」
開催要項



観桜会 高田城



妙高山といもり池

令和6年10月30日（水）

主催/新潟県小中学校教頭会

主管/上越ブロック 上越市・妙高市教頭会



あいさつ

新潟県小中学校教頭会会長

山下 信孝

第60回新潟県小中学校教頭会研究大会、第15回ブロック大会の開催にあたり、新潟県小中学校教頭会を代表いたしまして、挨拶を申し上げます。

本研究大会は、全国公立学校教頭会第13期統一研究主題「未来を切り拓く力を育む魅力ある学校づくり（キーワード：自立・協働・創造）」を受け、新潟県の今日的課題を踏まえたサブテーマ「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を切り拓く子どもを育む学校づくり（2年次）」の達成に向けて推進してきたことについて、会員同士がキーワードにもある自立・協働・創造を意識しながら追求していく場となります。その際、「研究の連続性」「組織研究としての協働性」「学校運営における教頭の関与性」について教育実践を語り合い、成果と課題を共有することにより、教頭としての資質を高める時間になることを目指しています。

令和5年度に文部科学省より発出された第4期教育振興基本計画において「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が示されました。今後日本が目指すべき社会や個人の在り方として重要な考え方となります。学校においても同様です。学校づくりにおけるウェルビーイングとは、子どものウェルビーイングであり教師のウェルビーイングでもあります。子どもや教師が心身共に健康で、社会的にも良好で、満たされているからこそ、「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を切り拓く子どもを育む学校づくり」に向かっていけます。

現在の勤務校では、昨年度150周年の周年行事が行われました。学校制度が始まってから約150年、「全員が同じことを、同じ方法で、同じペースで学習する」スタイルが脈々と受け継がれてきました。誰もがウェルビーイングとなる学校づくりをしていくためには、そこから脱却していかなければいけません。すなわち「主体的・対話的で深い学び」を実現させるため「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していくことが必要です。そのためには、私たち教頭が先頭に立って学ぶ姿勢を示すことが大事だと考えます。本研修会等での学びを各校に持ち帰り、日々実践していくことで、先生方に模範を示したいものです。

最後になりますが、本研究大会を開催するにあたり、新潟県教育委員会、新潟市教育委員会、新潟県小学校長会、新潟県中学校長会をはじめ、関係諸機関・諸団体からご後援・ご支援をいただきましたことに心から感謝申し上げます、挨拶といたします。

1 研究主題

「未来を切り拓く力を育む魅力ある学校づくり（キーワード：自立・協働・創造）」
 ～夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり～（2年次研究）

2 主催 新潟県小中学校教頭会



3 後援 新潟県教育委員会 上越市教育委員会 妙高市教育委員会
 新潟県小学校長会 新潟県中学校長会 上越市小学校長会
 上越市中学校長会 妙高市小学校長会 妙高市中学校長会

4 主管 上越ブロック上越市・妙高市教頭会

5 期日 令和6年10月30日（水） 13時30分から16時20分

6 日程

13:30 14:00 14:10 14:20 16:10 16:20

【受付】	【開会式】	【接続準備】	【分科会】 提案発表 質疑応答 グループ討議 ご指導	【閉会式】
ミーティングID 989 3651 7154 パスコード 301330				
接続確認 （上越会場に アクセス）  ミュート解除 ・マイクオフ  ビデオの開始 ・カメラオフ	上越会場 から	第1分科会 （上越会場） 再接続不要（そのまま待機） （開会式と同じミーティングIDとパスワード）	上越会場 から	第2分科会 ・ミーティングID 843 833 6494 （柏崎会場） ・パスワード kashikari1
第2、3分科会は、開会式後上越会場から退出していただき、参加会場へ接続をお願いします。閉会式は、全体で行いますので、16:10までに上越会場に再接続をお願いします。				
第3分科会 ・ミーティングID 977 5292 8874 （糸魚川会場） ・パスワード 558737				

7 会場

【上越会場】

（開会式・第1分科会〔1B〕）

上越教育振興会教育会館 上越市土橋816-1 TEL 025-525-5535

（第2分科会〔2A〕）

上越市立国府小学校 上越市五智4-1-10 TEL 025-543-2484
 上越市立飯小学校 上越市大字飯1946 TEL 025-523-3810

（第3分科会〔4〕）

上越市立清里小学校 上越市清里区岡嶺新田180 TEL 025-528-4634
 上越市立美守小学校 上越市三和区本郷668 TEL 025-532-2606
 上越市立牧中学校 上越市牧区小川1752 TEL 025-533-5023
 上越市立頸城中学校 上越市頸城区湊口60 TEL 025-530-2405

【妙高会場】**(第2分科会[2A])**

妙高市立妙高小学校 妙高市大字関山2785 TEL 0255-82-2012

(第3分科会[4])

妙高市立新井中央小学校 妙高市諏訪町2-4-8 TEL 0255-72-4225

【柏崎会場】**(第2分科会[2A])**

柏崎市立柏崎小学校 柏崎市学校町1-88 TEL 0257-22-2196

【糸魚川会場】**(第2分科会[2A])**

糸魚川市立糸魚川小学校 糸魚川市中央1-2-1 TEL 025-552-0042

(第3分科会[4])

糸魚川市立能生中学校 糸魚川市大字能生2643 TEL 025-566-2065

8 分科会構成

分科会 課題番号	第1分科会 1B	第2分科会 2A	第3分科会 4
研究課題	教育課程に関する課題 (中学校)	子どもの発達に関する課題 (小学校)	組織・運営に関する課題 (中学校)
指導者	上越市立頸城中学校 校長 小池 克行 様	上越市立保倉小学校 校長 荒井 尊嗣 様	上越市立富岡小学校 校長 長野 哲也 様
提言教頭会	上越市・妙高市教頭会	柏崎市刈羽郡教頭会	糸魚川市教頭会
提案者	上越市立名立中学校 教頭 梅津 英佑	柏崎市立枇杷島小学校 教頭 近藤 亜矢子	糸魚川市立能生中学校 教頭 熊木 勝
支援者	上越市立直江津中学校 教頭 矢坂 哲	柏崎市立半田小学校 教頭 矢嶋 隆之	糸魚川市立糸魚川中学校 教頭 江川 義法
会場責任者	上越市立和田小学校 教頭 曇 和弘	柏崎市立柏崎小学校 教頭 桑原 浩史	糸魚川市立能生小学校 教頭 山田 浩司
分科会 全体司会者	上越市立戸野目小学校 教頭 中川 知己	柏崎市立剣野小学校 教頭 小曾納 司	糸魚川市立磯部小学校 教頭 猪田 謙
分科会 全体記録者	上越市立稲田小学校 教頭 米岡 洋	柏崎市立二田小学校 教頭 品田 幹夫	糸魚川市立中能生小学校 教頭 高瀬 育子

開 会 式

時 程	内 容
13:30	Zoom入室開始
14:00	開会式【上越会場より】（全体進行 中川 知己 上越市立戸野目小学校） 1 開会の言葉（大会実行委員長 大野 隆司 上越市立富岡小学校） 2 開会の挨拶（県 教 頭 会 長 山下 信孝 新潟市立大野小学校）*動画 3 閉会の言葉、連絡（全体進行）
14:10	各分科会へ移動 ※第1分科会参加者は、休憩 ※第2・3分科会は、各分科会のZoomに接続
14:20	分科会開始

分 科 会

時 程	内 容
14:20	分科会（進行：会場責任者） 1 開会の言葉及び指導者、提案者、支援者、司会者、記録者の紹介（司会者） 2 分科会の進め方の説明（司会者） 3 提案発表（提案者） 4 質疑応答 5 小グループによる協議（進行・記録：各小グループで） ※上越会場は、ブレイクアウトルーム 6 グループ協議報告（協議報告代表） 7 ご指導（指導者） ※第2・3分科会は終了後、全体会（上越会場）のZoomに再接続 ※第1分科会は、Zoom接続のまま待機

閉 会 式

時 程	内 容
16:10	閉会式（全体進行 中川 知己 上越市立戸野目小学校） 1 閉会の言葉（中川 知己 上越市立戸野目小学校） 2 大会宣言（大会副実行委員長 長澤 虎幸 妙高市立新井小学校） 3 閉会の言葉（大会副実行委員長 松風 嘉男 上越市立春日中学校） 4 連 絡
16:20	Zoom退出



県教頭会長あいさつ

第60回新潟県小中学校教頭会研究大会の目指すもの

新潟県小中学校教頭会研究部

1 第60回新潟県小中学校教頭会研究大会主題について

(1) 研究主題

「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」

(キーワード：自立・協働・創造) <第13期全国統一研究主題>

(2) 研究主題設定の意義

令和の新しい時代がスタートして6年。人工知能の進化、高度情報化社会の到来と、生活の質の変化が急激に進んでいる。また、新型コロナウイルス感染症禍を経て、新しい生活様式への対応も進んでいる。一方、人口減少・高齢化、子どもの貧困問題、地域間格差等の社会的課題に加え、教職員の多忙化等、難しい課題が山積している。

こうした社会状況において、豊かな人生を生きるために子どもたちに求められることは、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新しいものを生み出し、課題の解決や改善に粘り強く取り組んでいく力を付けていくことであり、教育の果たす役割は重大である。そして、教育の現場にいる私たちは、日本国憲法や教育基本法の理念に基づき、子どもたち一人一人に、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を確実に育む学校教育を実現していくことが大きな使命である。

私たちは、このような背景を踏まえ、「社会や地域に開かれた教育課程」を展開し、時代の進展・変化に的確に対応する「生きる力」とともに、困難な中でもよりよい社会や幸せな人生を積極的に築き上げていく「未来を切り拓く力」を子どもたちに育み、たくましく生きていく人間の育成に貢献しなければならない。

併せて、昨今、教職員の人材確保が大きな課題となっていることから、未来を担う子どもたちを育てる仕事の責務と魅力が十分に感じられ、子どもたちにとっても、教職員にとっても「魅力ある学校づくり」を具現化していく必要がある。

2023年は、全国公立学校教頭会（全公教）の第13期統一研究主題「未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり」のもと、サブテーマ「夢や希望に向かい、他者ととともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」を設定して、第59回新潟県小中学校教頭会研究大会・第14回ブロック別研究大会をオンライン形式で開催し、第1年次の研究を進めてきた。そして、これまで諸先輩方が築き上げてきた「研究の継続性による成果と課題の焦点化」「研究の協働性の充実」「教頭の関与性の明確化」の更なる充実を目指し、会員の参加意識を高め、研究の成果や課題が会員一人一人に共有され、課題解決に寄与できるように努めてきた。

2024年度は、全国公立学校教頭会（全公教）の第13期統一研究主題を受けた研究の第2年次となる。サブテーマも1年次と同様に設定し、先に述べた「研究の継続性」と「協働性」、「教頭の関与性」を明らかにした教育実践を持ち寄り、その実践の有効性や妥当性などを検証するとともに、互いの実践や意見交換から学ぶことを通して、会員一人一人が学校運営の力量を高め、新潟県教育の発展に貢献することを目指す。

2 サブテーマについて

(1) サブテーマ

「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」(2年次研究)

(2) サブテーマ設定の趣旨

第3期教育振興基本計画の「Ⅲ. 2030年以降の社会を展望した教育政策の重点事項」では、個人の目指すべき姿として、「自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材の育成」が掲げられている。主体的に学ぼう、主体的に社会と関わろうとする意欲の源は、「こうなりたい」「こうしたい」という夢や希望である。また、直面する問題を解決するためには、多様な人と関わり協働していく力や、困難に対し自ら乗り越え粘り強く取り組んでいく力が必要である。

第13期の研究では、自立・協働・創造の三つの方向性を継承し、子どもたち一人一人が自分の未来に対して主体性をもち、実現に向けて協働的に取り組む力を育む学校づくりに焦点を当てて教育実践を重ねていく。その中核となる教頭の在り方を追求するため、サブテーマ「夢や希望に向かい、他者と共に自ら未来を切り拓く子どもを育む学校づくり」を設定した。

「夢や希望に向かい、他者と共に自ら未来を拓く子ども」とは、次のような資質や能力を備えた子どもである。

- | |
|--|
| <p>①多様な個性・能力を伸ばし、自ら可能性に挑戦することができる子ども
⇒ 「自立」する子ども</p> <p>②個人や社会の多様性を尊重し、共に助け合い、高め合うことができる子ども
⇒ 「協働」する子ども</p> <p>③自立・協働を通じて新たな価値を創造していくことのできる子ども
⇒ 「創造」する子ども</p> |
|--|

これからの激動の社会を生き抜く子どもたちには、自ら考え、学校内外の多様な人々と協働しながら主体的に課題を解決し、新たな価値を創造する力が求められている。このような力を育むために、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会とが共有し、学校・家庭・地域の連携をさらに深め、協働型・双方向型の学びを進めていくことが必要である。

また、学校内外の様々な知恵・資源を積極的に取り入れていくことにより、学校を子どもの教育の場であると同時に、多様な人が集まり協働し創造する学びの拠点として深化させていくことが期待されている。

「夢や希望に向かい、他者と共に自ら未来を拓く子ども」を育むためには、副校長・教頭が中核となり、学校運営を充実させていくことが重要となってくる。新潟県小中学校教頭会は組織的・協働的に、教頭の在り方を鋭角的にかつ多面的に追究し、新潟県の教育の振興に寄与していく。

(3) 研究課題と実践の視点

サブテーマ「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」の追究のために、5つの課題を設定した。私たちの研究は、新潟県・新潟市の課題をしっかりと受け止めるとともに、自校の抱えている課題を把握し、その解決を図ることが目的である。課題を解明する実践においては、教頭の職務内容に焦点付けた視点が必要である。そこで、全公教の内容例・視点例を参考にして、5つの課題と新潟県小中学校教頭会としての実践の視点を設定した。

(実践の視点はあくまでも例示であり、各単位教頭会において追究していく内容を絞り込んで実の上がる研究を推進する。)

【第1課題；教育課程に関する課題】

- 信頼される学校づくりに資する「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価に関すること
と（カリキュラム・マネジメント）
- 教育理念と学校経営に関すること
- 教育目標の設定と具現化に関すること
- 教育課程の実施と学校評価に関すること（GIGAスクール構想の推進等）
- 幼・保・小・中・高・特別支援学校の連携に関すること
- 家庭や地域との連携及び協働に関すること

【第2課題；子どもの発達に関する課題】

- 確かな学力の確実な定着に関わること
- 児童生徒の豊かな人間性の育成に関わること
- 児童生徒の健康・体力の増進に関わること
- 生き抜く力やこれから求められる資質・能力の育成に関わること
- 子どもの発達を支える教育課題に関わること

【第3課題；教育環境整備に関する課題】

- 児童生徒の安全安心に関すること
- 学校の施設設備に関すること
- 学校、家庭、地域との連携と協働に関すること
- 学校規模適正化に関すること
- 文書事務、経理事務の管理に関すること
- 教育の情報化に関すること（ICTの環境整備等）

【第4課題；組織・運営に関する課題】

- 学校運営全般に関すること
- 人材育成や組織力の向上に関すること
- 危機管理や情報管理に関すること
- 地域連携（コミュニティ・スクール等）に関すること
- 異校種連携に関すること

【第5課題；教職員の専門性に関する課題】

- 教職員の専門家としての意識高揚に関すること
- 教職員の指導力等の育成に関すること
- 教職員の研修に関すること
- 教職員の服務、コンプライアンス意識に関すること
- 小中一貫教育を通じた、教職員の課題意識の向上に関すること
- 教職員の協働体制の構築に関すること
- 教職員の学校運営参画意識の向上に関すること

3 研究の基本方針

全国公立学校教頭会の研究の基本方針を踏まえ、新潟県小中学校教頭会として次の3点に焦点を当てた実践的研究を進める。〈3つのC〉

- (1) 客観的で継続性のある研究を進める・・・continuity
- (2) 組織的で協働性のある研究を進める・・・collaboration
- (3) 教頭としての関与性を明確にした研究を推進する・・・commitment

今年度も、郡市教頭会ごとに研究の協働性を高めるとともに、①研究テーマは何か ②研究テーマに正対する結論は何か ③結論を支える具体的な事実は何か の整合性を高めた論述をし、会員一人一人に研究の成果が共有されるように配慮していく。

研究大会の効果を評価する4つのレベルというものがある。(出典：アメリカの経営学者カークパトリック博士が1959年に提案した教育の評価法のモデルより)

- レベル1 研究大会に参加したことに満足する
- レベル2 学んだことで新たな知識や技能を習得する
- レベル3 実際の教育現場での行動変容、向上的な行動変容が見られる
- レベル4 学校組織全体の業績や成果が上がる

今回の研究大会は、昨年度に引き続いてのブロック別研究大会である。会員一人一人の学びのレベルは違って来るであろうが、大会要項の精読・協議の柱の確認などを行い「研究成果を会員一人一人の勤務校や郡市に持ち帰ること」と「本研究大会の成果と課題を明確にすること」を目指していく。



チーム学校で取り組む小中連携 ～小学校・中学校・地域がともに歩む姿を目指して～

上越市教頭会 上越市立名立中学校 梅津 英佑

1 課題

名立中学校における生徒対象、保護者対象の学校評価から、課題として学力向上、メディアコントロール、地域連携についての向上が挙げられる。名立中学校では、課題解決に向け、また地域とともに歩む学校を目指して小中連携の推進を教育課程編成の中核の一つに据えている。

中学校区を目指す子ども像として

- (1) 自信をもち、伸びていく子ども
- (2) ふるさと名立に誇りをもつ子ども

を定め、小学校と中学校の職員が学習環境部、生活・地域連携部、健康・体力向上部の3つの部会に所属し、年3回協議を重ね、それぞれの分野からアイデアを出し、実践している。また、小中連携組織の礎として、学校運営協議会（以下CS）に加え、青少年育成会議である「名立の子どもを守り育む会」（以下育む会）が存在する。チーム学校として、小中連携にとどまらず、地域連携も絡めて小学校中学校及び地域全体を活性化させていくという意識で小中それぞれ教育活動を進めている。

単なる前年度踏襲による活動を避け、より良い方策を探ることが毎年の課題であり命題でもある。小学校、中学校、地域が一体となり中学校区を目指す子ども像に少しでも近づくことができるよう小学校と中学校の職員は実践と協議を重ねている。

2 課題解決の取組（R5/4/19 前年度の反省を踏まえ、5年度の活動を考える第1回小中打合せ会議）

□□□□…地域との連携に関わる内容

(1) 学習環境部

- ① 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について、小・中それぞれの視点で実践を重ねる。授業展開の手法を共通化するのではなく、互いのグランドデザイン、研究主題等を共有し、授業改善を進める。
- ② 授業研究の際に、小中の職員で授業を参観し合う機会を設定する。協議会までの参加が難しい場合は授業の感想を付せんにて記して授業者に渡し、授業改善につなげる。

CSや育む会にも授業参観を案内し、教員以外の視点からも意見や感想をもらう。

(2) 生活・地域連携部

- ① 6月と10月に小中合同であいさつ運動を行う。
6月は朝に中学1年生が小学校へ出向き、小学校5、6年生と一緒に、登校してくる児童にあいさつをする。10月は昼休みに、中学生は縦割り班で小学校を訪れ、小学5、6年生は中学校を訪れ、廊下や体育館をまわりあいさつをする。縦割り班の中学生と小学5、6年生が一緒にあいさつをする。
- ② 「いじめ防止・見逃しゼロスクール集会」で縦割り班活動（アイスブレイク、話し合い活動）を行う。

CS、育む会にも案内を出し、あいさつ運動及びスクール集会に参加（参観）してもらう。

(3) 健康・体力向上部

- ① 小中互いの体力テストを持ち寄り、向上させたい運動技能を明確化し授業改善に活かす。
- ② 小中共通でアウトメディア週間を設け、メディアコントロールできる力を育む。

CS会議や育む会の会議において、体力面やメディアの問題の話題を提供し、教員以外の多方面から意見や助言をもらう。

3 成果と今後の課題

(1) 学習環境部

【成果】

小中それぞれ授業公開の日を事前に情報交換することで年数回、互いの授業を参観することができた。CS、育む会からも参観してもらい、教員以外の視点からたくさんの意見を得ることができた。

【課題】

授業参観後、小中それぞれ協議会までの参加がなかった。付せんに感想を書いて残したが、対面で授業について直接語り合うことができれば、授業改善についての意識も高まるとの声が多く出た。6年度4月の小中打合せ会において、1回以上は協議会まで参加する事を学習指導部の目標に定めた。年度末始に概ね公開授業の日程は決まる。教頭、教務を中心に情報交換し、日を設定する。

(2) 生活・地域連携部

【成果】

- ・中学生が良いお手本となり、合同あいさつ運動に参加しなかった小学生も含め、小学校でも日常的にあいさつを交わし合う雰囲気になった。CSや育む会ともあいさつの交流ができた。CS、育む会から「地域でもあいさつしやすくなった」と感想を聞くことができた。
- ・スクール集会の縦割り班では、中学生がリードし、良い雰囲気アイスブレイクから話し合い活動まで行うことができた。CS、育む会にも参観してもらい、「現代のいじめについて知ることができた」「子ども達が明るく真剣に意見を交流させていてすばらしい」と感想を聞くことができた。

【課題】

- ・朝のあいさつも昼休みのあいさつも、当番児童生徒が「おはよう」「こんにちは」を形式的に投げかけているように見えるときもあった。「〇〇さん、おはよう」とあいさつに名前をつけたり、あいさつと同時にハイタッチをしたりするなど、児童生徒が興味や関心をもつような工夫が必要である。
- ・スクール集会はあくまで「スタート」のはずであるが、どうしても集会の日がピークになってしまう。継続的に集会での取組を省みることができる共通取組があると、集会の価値がより大きくなる。
- ・あいさつ運動にしてもスクール集会にしても、実施日が確定した段階でCSや育む会といった組織に伝える必要がある。できるだけたくさんの参観者がいるとより充実する。

(3) 健康・体力向上部

【成果】

小学校のマラソン大会、中学校の名立駅伝大会をそれぞれ目標にしたことで児童生徒は意欲的に授業に取り組み、持久力の向上につながった。地域の方からの応援で小学校のマラソン大会は盛り上がり、地域行事の名立駅伝では全校で参加することにより地域活性化の一助となることができた。

【課題】

- ・メディアコントロールについて、持続可能な形で恒常的に取り組むことができると良い。
- ・名立駅伝は祝日である11月3日の文化の日の開催で、振替休業日は設定していない。強制ではないが職員はボランティア参加になってしまう。職員の動きについて検討していく必要がある。

○協議してほしいこと

- ・地域行事や関連会議等で平日の時間外や休日等に「勤務」ではない参加を職員に求める場合の対応
- ・小中連携や地域連携が、具体的な数値として学力面や生活面に効果が現れた例

未来の創り手となる子どもたちのよりよい発達を促すために ～課題意識の洗い出しと課題解決に向けた取組～



柏崎刈羽教頭会 柏崎市立枇杷島小学校 近藤 亜矢子

1 課題

コロナ禍を数年過ごした子どもたちは、交流活動の制限から実体験が不足している。また、インターネットなどを通じた疑似的、間接的な体験が増加している反面、リアルな人、もの、自然に直接触れる機会が減少している。そこで、学校では体験活動や人やものに実際に触れる経験を充実していく必要がある。もうひとつは、子どもの主体性を育成するために、子どもが自ら考え計画し、周りの人やものに積極的に働きかけていく活動を仕組むことも必要であると考えます。

職員は、子どもが身に付ける力を明らかにし、共有し、職員一人ひとりがそれを意識して教育活動を計画・実施し、成果と課題を振り返る。このようなPDCAサイクルをくり返していくことは、教育活動の意義を職員自身が感じ、そこで目指す子どもの姿を描き、共有することに繋がる。そして、働きかけを仕組むことが、子どもの主体性や考える力、意欲を盛り上げ、子どもの充実した学校生活が実現され、ひいては「生きる力」の育成に繋がると考える。

2 課題解決の取組

(1) 課題意識の洗い出し

まず、柏崎刈羽に所属する各校教頭のレポートから課題意識となるキーワードを分類した。その結果、主に「児童の主体性、自信、自己肯定感」、「生徒指導」、「地域連携」、「学力向上」の4項目に関心が高いことが分かった。続いて、各自の教頭としての課題、今後取り組みたいことについてアンケート調査を行った。そこでは、若手が日々の生徒指導上の問題、学級経営、授業づくりに苦慮していることから「生徒指導」「若手育成」に高い課題意識をもっていることが分かった。また、教頭は、チーム学校を創る中心的な立場であることから「適切なアドバイス」の在り方や、子ども一人一人の分かったできたを感じさせる「授業づくり」についての課題意識も高いことが分かった。

(2) 研究の実際 課題に対する対応策

◎実践ア「職員への適切なアドバイスをもととした、児童の自己肯定感を高める活動」

【手立て・取組】

他者からの称賛は、子どもの自己肯定感の育成に繋がる。子どもが自己決定し主体的に取り組んだ時、それはさらに高まる。このように承認や自己実現に焦点を当て、満足感・達成感をもたせることを意識し、職員にアドバイスしながら有効な活動を検討させたところ、以下の取組が提案された。

- ・一人一人のよさを認め合う場面の設定（例）保護者から我が子へ、異学年交流における思いやりレター
- ・自己決定させる場の設定と成功体験へつなげる支援
- ・個性を生かした活動の場と役割の授与

【成果】

○子どもが自分の考えやアイデアを出し、のびのびと活動する姿が増えた。

- 子どもは学年相応の役割を意識して動く姿が見られた。
- 子どもに意思決定をさせるために、教師側の待つ姿勢、支える姿勢が見られるようになった。

◎実践イ「授業づくりを楽しむ環境を整えることから、学力向上を図る取組」

【手立て・取組】

どの子どもも取りこぼさないための授業のユニバーサルデザイン化を推進し、授業を練ることの楽しさや子どもに力をつけることが教師のやりがいに繋がることを意識して、学力向上を図る以下の取組を行った。

- ・校内授業研究の振り返りを A4 用紙 1 枚にまとめて授業者に伝達
- ・授業づくりを楽しむ風土づくりを紹介、ミニネタの紹介、ミニ研修の実施
- ・特別支援コーディネータと連携し、授業のユニバーサルデザイン化を推進
- ・学力に関する実態把握と課題解決のための対応策を職員で考え、実施し、検証する。

【成果】

- 教師の授業づくりや授業改善に取り組む意欲を高めることができた。授業を観察した後の伝達の内容には、授業者の意図的な仕掛が子どもの変化につながったことや、指導の意味づけ・価値づけを意識的に伝えた。
- 教師同士の授業についての会話が増えた。工夫やアイデアを気軽に気楽に話し、高め合う雰囲気が出た。
- 学習ルール、学習環境、学び方などの授業のスタンダードを意識することで、子どもの混乱を防ぐことができた。
- 中学校区で課題を共有した。家庭学習強調週間の時期を同じにするなど、取組を共有することができた。

◎実践ウ 「豊かな体験活動に基づく、寛容な心の育成を目指した生徒指導」

【手立て・取組】

違いを認める寛容な心の育成が様々な生徒指導上の問題解決につながると考え、以下の取組を行った。

- ・特別支援コーディネーター等による優しさ講座
- ・全校道徳、全校 S S E
- ・人権教育、同和教育の推進
- ・豊かな体験活動のための地域人材、GT の積極的な活用

【成果】

- 離席の減少、友達とのトラブル減少、授業時間への積極的な参加が見られた。
- 不適切な言動に同調する、ルールを破るなど、他に流されてしまう問題行動が減った。
- 人とのつながりを感じ、人への感謝の気持ちを育てることにつながった。地域との連携が強化された。
- コミュニケーション能力が育ち、他者との関わりが増えた。
- 学級、児童会など様々な場面で PDCA サイクルを活用したことで、子どもが主体的に動く様子が増えた。

3 成果と今後の課題

○教育課題を共有し職員全体で考える機会を設けることで、それぞれが自分事として受け止め、チームとして対応する意識が高まり、アイデアを出し合う良い機会になった。また、子どものよりよい人間関係づくりを促し、個々の特性を互いに認め合うことができる集団を形成していくことが、様々な発達課題をもつ子の確かな成長に繋がることが分かった。

▲児童の心により響く指導方法の確立や、価値観や学びの多様性に対応できる職員の人材育成が課題である。

○ 協議してほしいこと

- ・職員の教員魂の回復・活性化とそれに向けた人材育成。教頭としてできることや工夫していること。
- ・コロナ禍後、学校でなくなった活動と子どもの資質・能力育成のために復活・継続している活動について。

社会に開かれた教育課程の実現に向けて

～地域と連携し、SNGs、SDGs 活動を点から線に～



糸魚川市教頭会 糸魚川市立能生中学校 熊木 勝

1 課題

学習指導要領においては、教育課程を通じて、子どもたちが変化の激しい社会を生きるために必要な資質・能力を明確にし、社会とのつながりを重視しながら学校の特色づくりを図っていくことや、現実の社会との関わりのなかで子どもたち一人ひとりに豊かな学びを実現していくという社会に開かれた教育課程の実現が求められている。つまり、子どもたちが社会とのつながりを通して学び、自身の人生や社会をより良く変えられるという実感を持つことで、これから直面するさまざまな課題を乗り越え成長する力をつけさせることが、教師に求められている。

当校は、3年前に創立30周年を記念して、未来の仲間たちに贈る「SNGs」（持続可能な能生中の目標5項目「先手挨拶」「心地よい反応」「満点学習」「感謝の連鎖」「地域に貢献」）を生徒会活動の目標に定め、その具現化のために生徒の主体的な活動を進めている。また、地域社会と連携したSDGs活動にも積極的に取り組んでいる。しかし、生徒は関わり方が分からなかったり、恥ずかしがったりしてしまい、自分を取り巻く環境や人々に主体的に関わろうとする姿勢がやや弱い実態がある。また、新型コロナウイルス感染症により、地域との交流活動や地域貢献活動が大幅に削減され、地域の温かさに触れたり、感謝されたりする体験が減ったことで、生徒が自己有用感を高める機会が少なくなった。行事や特別活動等の教育課程の見直しを図り、新たな価値付けによる教育課程の編成を進めることが急務である。

以上のことから、教頭は地域との橋渡し役として、地域とつながり、協働する機会をマネジメントしていく必要がある。生徒が自身の取組を明確に価値付けできる集団づくりを進め、既存の体験活動等が点のように単発の取組として行われるのではなく、教科を横断し、教育課程全体を通じた線としての取組へと活動を広げ、学びを深められるようなカリキュラム・マネジメントを目指した。

2 課題解決の取組

既存の学校行事や生徒会活動に新たな価値付けを行い、地域の教育力を取り入れ、地域と協働する活動の実施と学びを深めるカリキュラムづくりを目指した具体的な取組。

(1) 能生中 SNGs カリキュラムの見える化

能生中 SNGsカリキュラム		先手挨拶	心地よい反応	満点学習	感謝の連鎖	地域に貢献	SDGs						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生徒会	生徒会入会式	アオ校旗9/16		挨拶運動				挨拶運動	アオ校旗11/16				
	チュウリップ展覧 卒業発表 祝賀	学校コッポン展覧	体育祭発表会2nd 卒業生発表会					学校コッポン展覧		アオ校旗 結え			チュウリップ展覧 祝賀
部活動	生活委員会 玄関挨拶運動							平和学習					
	美術部(文化)	花画(文化)配付											花街(文化)回収
1年	学年学習開き	グリーンカーテン 命のアサガオ お年寄り見守りフェスティバル											
	授業スナガート	経験茶館結え						遠足神楽の演習					経験茶館祝賀
2年	学年学習開き	子供の権利学習											
	授業スナガート	学校目標達成 進路画のアイデア						家庭学習メディア					進路画展覧
3年	学年学習開き												
	授業スナガート	家庭学習メディア						進路画展覧					進路画展覧

能生中学校が進める SNGs、SDGs 活動の取組を1年間のカレンダーに落とし込み（カリキュラムの見える化）、見通しをもって生徒が主体的に活動できるよう整理した。その生徒の活動と教科の学びや特別活動としての学年部活動、部活動をリンクさせ、学びがより深められるように教職員で整理し、共通理解を図った。（学年部、教科部等の連携の見える化）

(2) 地域人材を活用した地域とかかわる教育活動

- ① あいさつ運動・・・「先手あいさつ」「心地よい反応」「感謝の連鎖」「地域に貢献」
 - ・生徒玄関で生活委員会、総務委員会で実施していた活動の場所と人員を増やし、能生駅前で学区小学校、高校、保護司会、まちづくり推進協議会と連携して実施。
 - ・中学生の目線で行う地域を明るくする活動・・・あいさつスローガンなど全校での活動に昇華
 - ・昨年度は全校での平和学習（広島研修・北方領土研修）の成果も同時 PR
- ② 花街プロジェクト・・・「感謝の連鎖」「地域に貢献」
 - ・体育祭での幼児レースや老人介護施設の清掃、交流活動を標語とイラストを添えて、プランターの花を送ることで交流を実施。
 - ・生徒が育てたプランター80個（季節の花）を校区内9箇所（事務所 駅 児童館 保育園3箇所 老人介護施設 近隣公民館）に寄贈。
- ③ いといがわコットンプロジェクト・・・「感謝の連鎖」「地域に貢献」
 - ・地元企業から依頼（8個のプランター支給）された棉花栽培を生徒会主催のプロジェクトへ昇華（植え、栽培、収穫、製作）
 - ・校内：プランター48個、畑、花壇に植え、栽培し、収穫したコットンを糸に紡いで、コースターなどを製作。（1班1プランター栽培、マスコットキャラクターづくり）
 - ・地域：企業の畑植え、収穫体験や学習を教科横断的な学びとして、社会科での農業問題や児童労働問題と関連付けた深い学び。美術での立体作品づくり。家庭科でのキーホルダーづくり。

3 成果と今後の課題

(1) 成果

①地域と共に歩む持続可能な教育活動の確立

地域の教育力を学校に取り入れるために地域コーディネーターと連携し、地域の指導者を学校に招いて、生徒の活動を地域から価値付けしてもらうことで、生徒の自己有用感の高まりにつながっている。また、カリキュラムの見える化によって、教職員の関わりが明確化され、組織的な対応が可能となった。

②生徒の取組への意欲の向上

SNGs、SDGs 活動の取組をカレンダーによる見える化をしたことで、生徒がより主体的に意識をしながら活動を行えた。SNGs 活動5項目での肯定的な評価が80%を超え、いといがわコットンプロジェクトでは、90%、各学年で取り組んだSDGs 活動では88%の生徒が主体的に取り組んだと評価した。

(2) 課題

今後、生徒数の減少が見込まれる当校において、新たな行事や取組を増やすことは困難である。今ある教育活動をどのように価値付けし、繋いでいくのか、また、教育効果がある活動かを検討し、精選していくことが今後の重要な課題となる。

○ 協議してほしいこと

- ・社会に開かれた教育課程の実現に向けてどのような取組を行い、教頭としてどのように関わっているか。

第1分科会

1B 教育課程に関する課題（中学校）

【協議題】

- ・地域行事や関連会議等で平日の時間外や週休日等に「勤務」ではない参加を職員に求める場合の対応
- ・小中連携や地域連携が、具体的な数値として学力面や生活面に効果が現れた例

【参加者名簿】

指導者 上越市立頸城中学校 小池 克行 様

提言者	梅津 英佑	上越市立名立中学校
司会者	中川 知己	上越市立戸野目小学校
記録者	米岡 洋	上越市立稲田小学校
支援者	矢坂 哲	上越市立直江津中学校
会場責任者	壘 和弘	上越市立和田小学校

No.	氏名	所属校	課題番号	分科会会場	役割	小グループ	小グループ司会	小グループ記録
1	山本 宏幸	城北中学校	1B	勤務校		A	○	
2	渡邊 洋臣	直江津東中学校	1B	勤務校		A		
3	力間 博隆	第三中学校	1B	勤務校		A		○
4	小松 祐貴	柏崎翔洋中等教育学校	1B	勤務校		A		
5	平野 彰子	八千浦中学校	1B	勤務校		B		○
6	金子 顕	直江津中等教育学校	1B	勤務校		B		
7	毛見 哲也	鏡が沖中学校	1B	勤務校		B	○	
8	木本 高志	第五中学校	1B	勤務校		B		
9	水野 頌之助	妙高高原中学校	1B	勤務校	協議会報告	C		○
10	伊藤 貴史	上教大附属中学校	1B	勤務校		C		
11	松永 昭夫	瑞穂中学校	1B	勤務校		C	○	
12	小山 宏一	西山中学校	1B	勤務校		C		
13	近藤 和久	城西中学校	1B	勤務校		D	○	
14	関原 和人	妙高中学校	1B	勤務校		D		
15	土田 貴宏	松浜中学校	1B	勤務校		D		○
16	八木 純	刈羽中学校	1B	勤務校		D		
17	鴨井 淳一	新井中学校	1B	勤務校		E	○	
18	巻口 礼子	第一中学校	1B	勤務校		E		
19	大島 弘士	南中学校	1B	勤務校		E		○

No.	氏名	所属校	分科会	分科会会場	役割	小グループ	小グループ司会	小グループ記録
20	柳澤 淳	雄志中学校	1B	勤務校		F	○	
21	吉原 裕介	第二中学校	1B	勤務校		F		○
22	新保 隆之	東中学校	1B	勤務校		F		
23	梅津 英佑	名立中学校	1B	上越教育振興会教育会館	提言発表者	—	—	—
24	矢坂 哲	直江津中学校	1B	上越教育振興会教育会館	支援者	—	—	—
25	長澤 虎幸	新井小学校		上越教育振興会教育会館	副実行委員長	—	—	—
26	大野 隆司	富岡小学校		上越教育振興会教育会館	実行委員長	—	—	—
27	米岡 洋	稲田小学校		上越教育振興会教育会館	全体記録者	—	—	○
28	曇 和弘	和田小学校		上越教育振興会教育会館	会場責任者	—	—	—
29	中川 知己	戸野目小学校		上越教育振興会教育会館	全体司会者	—	○	—
30	黒田 隆夫	有田小学校		上越教育振興会教育会館	会場部	—	—	—
31	新保 成美	潮陵中学校		上越教育振興会教育会館	会計	—	—	—
32	松風 嘉男	春日中学校		上越教育振興会教育会館	副実行委員長	—	—	—

第2分科会

2A 子どもの発達に関する課題（小学校）

【協議題】

- ・ 職員の教員魂の回復・活性化とそれに向けた人材育成。教頭としてできることや工夫していることについて
- ・ コロナ禍後、学校でなくなった活動と子どもの資質・能力育成のために復活・継続している活動について

【参加者名簿】

指導者 上越市立保倉小学校 荒井 尊嗣 様

提言者	近藤亜矢子	柏崎市立枇杷島小学校
司会者	小曾納 司	柏崎市立剣野小学校
記録者	品田 幹夫	柏崎市立二田小学校
支援者	矢嶋 隆之	柏崎市立半田小学校
会場責任者	桑原 浩史	柏崎市立柏崎小学校

No.	氏名	所属校	課題番号	分科会会場	役割	小グループ	小グループ司会	小グループ記録
1	磯野 正人	大手町小学校	2A	飯小学校		A		
2	山岸 英昭	黒田小学校	2A	飯小学校		A		
3	丸山 悟	春日小学校	2A	飯小学校		A	○	
4	亀山 亨	大町小学校	2A	飯小学校		A		○
5	日木 芳道	東本町小学校	2A	飯小学校		B		
6	樋口 英樹	飯小学校	2A	飯小学校	会場責任者	B		
7	内藤 寿一	高志小学校	2A	飯小学校		B	○	
8	布施 幸治	高田西小学校	2A	飯小学校		B		○
9	大友 宏幸	南本町小学校	2A	飯小学校		C		
10	長谷川裕美	大和小学校	2A	飯小学校		C	○	
11	杉田 良子	三郷小学校	2A	飯小学校		C		○
12	大岩 恭子	上教大附属小学校	2A	飯小学校		C		
13	保坂 国馨	直江津小学校	2A	国府小学校		D		
14	入村 文子	北諏訪小学校	2A	国府小学校		D		○
15	横尾 研一	国府小学校	2A	国府小学校	会場責任者	D		
16	外立 努	宝田小学校	2A	国府小学校		D	○	
17	山田 秀幸	直江津南小学校	2A	国府小学校		E		
18	富樫 徹	春日新田小学校	2A	国府小学校		E		○
19	寺島 元子	谷浜小学校	2A	国府小学校		E	○	

No.	氏名	所属校	分科会	分科会会場	役割	小グループ	小グループ司会	小グループ記録
20	関谷 俊彦	新井南小学校	2A	妙高小学校	会場責任者	F		
21	三田村 尚子	妙高高原小学校	2A	妙高小学校		F	○	
22	松本 高志	妙高小学校	2A	妙高小学校		F		○
23	根津 恭子	下早川小学校	2A	糸魚川小学校		G		○
24	永森 幸代	西海小学校	2A	糸魚川小学校		G		
25	松葉 大吾	糸魚川小学校	2A	糸魚川小学校		G		
26	加藤 剛	根知小学校	2A	糸魚川小学校		G	○	
27	澤田 隆	青海小学校	2A	糸魚川小学校	会場責任者	G		
28	八木 千佳誉	大和川小学校	2A	糸魚川小学校		H		○
29	角鹿 康武	糸魚川東小学校	2A	糸魚川小学校		H	○	
30	竹田 道則	大野小学校	2A	糸魚川小学校		H		
31	早川 尚美	田沢小学校	2A	糸魚川小学校		H		
32	桑原 浩史	柏崎小学校	2A	柏崎小	会場責任者	I		
33	小曾納 司	剣野小学校	2A	柏崎小	全体司会者	I		
34	矢嶋 香織	荒浜小学校	2A	柏崎小		I	○	
35	荒川 紀子	中通小学校	2A	柏崎小		I		○
36	品田 幹夫	二田小学校	2A	柏崎小	全体記録者	I		
37	山之内 朋子	比角小学校	2A	柏崎小		J		
38	吉井 千秋	鯨波小学校	2A	柏崎小		J	○	
39	飛田 修	新道小学校	2A	柏崎小		J		
40	岡 一恵	米山小学校	2A	柏崎小		J		○
41	佐藤 裕貴	内郷小学校	2A	柏崎小		J		
42	福永 純恵	大洲小学校	2A	柏崎小	協議報告者	K		
43	清水 正明	榎原小学校	2A	柏崎小		K	○	
44	西巻 純代	田尻小学校	2A	柏崎小		K		
45	松井 陽一	鯖石小学校	2A	柏崎小		K		
46	井口 笑子	刈羽小学校	2A	柏崎小		K		○
47	川上 節夫	日吉小学校	2A	柏崎小		L		
48	眞貝 典子	北鯖石小学校	2A	柏崎小		L	○	
49	田中 文健	北条小学校	2A	柏崎小		L		○
50	近藤 亜矢子	枇杷島小学校	2A	柏崎小	提言発表者	—	—	—
51	矢嶋 隆之	半田小学校	2A	柏崎小	支援者	—	—	—

第3分科会

4 組織・運営に関する課題（中学校）

【協議題】

・社会に開かれた教育課程の実現に向けてどのような取組を行い、教頭としてどのように関わっているか。

【参加者名簿】

指導者 上越市立富岡小学校 長野 哲也 様

提言者	熊木 勝	糸魚川市立能生中学校
司会者	猪田 謙	糸魚川市立磯部小学校
記録者	高瀬 育子	糸魚川市立中能生小学校
支援者	江川 義法	糸魚川市立糸魚川中学校
会場責任者	山田 浩司	糸魚川市立能生小学校

No.	氏名	所属校	課題番号	分科会会場	役割	小グループ	小グループ司会	小グループ記録
1	北野 稔	諏訪小学校	4	清里小学校		A		
2	宮川 伸江	牧小学校	4	清里小学校		A	○	
3	橋爪 智哲	板倉小学校	4	清里小学校		A		○
4	新井 慎一	清里小学校	4	清里小学校	会場責任者	A		
5	熊木 喜隆	高士小学校	4	清里小学校		B		
6	大瀬 孝志	中郷小学校	4	清里小学校		B		○
7	長谷川孝史	豊原小学校	4	清里小学校		B	○	
8	竹内 淳	安塚小学校	4	美守小学校		C		
9	若井 辰馬	上下浜小学校	4	美守小学校		C		
10	炭谷 倫子	南川小学校	4	美守小学校		C	○	
11	横山 毅彦	吉川小学校	4	美守小学校		C		○
12	横尾 裕美	美守小学校	4	美守小学校	会場責任者	D		
13	植木 幸広	大島小学校	4	美守小学校		D		
14	大坪 豊	下黒川小学校	4	美守小学校		D	○	
15	炭谷 希基	柿崎小学校	4	美守小学校		D		○
16	大坪千恵子	里公小学校	4	美守小学校		E		
17	坂森 弘明	大潟町小学校	4	美守小学校		E	○	
18	福永 栄二	明治小学校	4	美守小学校		E		○
19	中村 裕	上杉小学校	4	美守小学校		E		

No.	氏名	所属校	分科会	分科会会場	役割	小グループ	小グループ司会	小グループ記録
20	大森己智子	牧中学校	4	牧中学校	会場責任者	F		
21	長田 敏行	中郷中学校	4	牧中学校		F	○	
22	須田 圭一	板倉中学校	4	牧中学校		F		
23	池村 和重	清里中学校	4	牧中学校		F		○
24	渡辺 正一	三和中学校	4	牧中学校		F		
25	田口 秀行	柿崎中学校	4	頸城中学校		G	○	
26	黒田 匠	大潟町中学校	4	頸城中学校		G		
27	工藤 寛之	頸城中学校	4	頸城中学校	会場責任者	G		
28	大桃 和行	吉川中学校	4	頸城中学校		G		○
29	浅山 景	斐太北小学校	4	新井中央小学校		H	○	
30	寺島 克郎	新井北小学校	4	新井中央小学校		H		○
31	金子 謙太郎	新井中央小学校	4	新井中央小学校	会場責任者	H		
32	猪田 謙	磯部小学校	4	能生中学校	全体司会者	I	○	
33	山田 浩司	能生小学校	4	能生中学校	会場責任者	I		
34	山崎 正義	南能生小学校	4	能生中学校	協議報告者	I		
35	高瀬 育子	中能生小学校	4	能生中学校	全体記録者	I		○
36	倉又 佳宏	糸魚川東中学校	4	能生中学校		I		
37	佐藤 文大	青海中学校	4	能生中学校		I		
38	熊木 勝	能生中学校	4	能生中学校	提言発表者	—	—	—
39	江川 義法	糸魚川中学校	4	能生中学校	支援者	—	—	—

第60回新潟県小中学校教頭会研究大会 大会宣言

急速に変化し、将来の予測が難しいこれからの社会を生きる子どもたちには、多様性を受容する思いやり、自ら考え判断し行動する力、他者と協働しながら新しいものを生み出していく創造性が求められています。そして、厳しい挑戦の時代を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもち自立した人間として、未来を切り拓く力をもった子どもを育むことは重要です。

本研究大会では、第13期全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む魅力ある学校づくり」（キーワード 自立・協働・創造）のもと、「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」（2年次研究）をサブテーマに掲げ、直面する教育諸課題の解決を目指してきました。

また、「研究の継続性による成果と課題の焦点化」、「研究の協働性の充実」、「教頭の関与性の明確化」の3つを研究の柱として、教頭の在り方を明らかにしてきました。

私たちは、教頭としての職責の重大さを改めて自覚し、やがて社会の創り手となる子どもたちが、自ら考えて行動し、他者と協働しながら課題を乗り越え、新たな価値を創造しながら未来を拓く力を育んでいくことができる魅力ある学校づくりに努めていかなければなりません。

ここに会員の総力を結集し、次の事項の実現に教頭として全力を尽くすことを、第60回新潟県小中学校教頭会研究大会の総意をもって宣言します。

決 議

- 1 信頼に応える学級づくりに資する教育課程の編成・実施・改善
- 2 主体的に学び、たくましく生き抜く児童生徒を育む学級づくり
- 3 魅力ある学校づくりを支える教育環境整備の推進
- 4 組織マネジメントを生かした学校運営の活性化
- 5 教職員の資質向上、職務意識の高揚を図る校内体制づくり

令和6年10月30日

第60回新潟県小中学校教頭会研究大会

☆第 60 回新潟県小中学校教頭会研究大会へのご参加ありがとうございました。
研究大会のさらなる充実のために、アンケートにご協力ください。

*右の QR コードを読み取って、お答えください。

<11月5日(火)まで>

